

July 2, 2019

【前日の為替概況】ドル円、続伸 米金利が上昇

1日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は108.45円と前営業日NY終値(107.85円)と比べて60銭程度のドル高水準だった。NY序盤は108.30円付近でもみ合いが続いていたが、米10年債利回りが2.04%台まで上昇するにつれて強含み。一時108.49円付近まで値を上げた。もっとも、NY市場に限れば値幅は26銭程度と狭かった。

なお、6月米ISM製造業景気指数は予想を上回ったが、同時に発表された5月米建設支出は予想より弱い内容と強弱入り混じる結果に反応は限定的だった。

ユーロドルは反落。終値は1.1286ドルと前営業日NY終値(1.1373ドル)と比べて0.0087ドル程度のユーロ安水準だった。欧州長期金利が低下したほか、ドルが全面高となった流れに沿ってユーロ安・ドル高が加速。目立った戻りも見られないまま一時1.1281ドルまで一本調子で値を下げた。

なお、豪ドルや人民元もさえない動き。2日の豪準備銀行(RBA)理事会で利下げが予想されるなか、NY時間には豪ドル安が進み、対ドルで0.6956米ドルまでそれぞれ値を下げた。また、中国返還22年を迎えた香港でデモ隊が立法会の建物に突入するなど一部暴徒化していることが嫌気され、オフショア市場で人民元は対ドルで6.8650元まで元安に振れた。

ユーロ円は反落。終値は122.38円と前営業日NY終値(122.66円)と比べて28銭程度のユーロ安水準だった。ユーロドルの下落につれて終始さえない展開に。一時は290ドル超上昇していたダウ平均が10ドル超高まで上げ幅を縮めたことも重しとなり、一時122.36円まで下押しした。

【本日の東京為替見通し】ドル円は108円台でもみ合いか、RBA利下げ予想で豪ドルの動き警戒

本日の東京市場のドル円は、108円台でもみ合いに終始するか。昨日は米中通商交渉再開を好感し、ドル円は108円台で底堅い動きだった。しかし、今後の通商交渉がどのように進むかが未知数なため、大きく相場を動かすことはできなかった。本日もドル円を動かすには材料が少なく、小幅なレンジでの取引を予想する。

大きな動きは期待できないが、依然としてリスクオフになる材料は目白押しで、中長期的にはドル円の上値は限られそうだ。米中貿易戦争、イランを巡る中東問題など既存のリスクオフ以外にも、香港のデモが過激化していること、欧州連合(EU)の首脳人事が決まらず紛糾していること、日韓の関係悪化などが新たに懸念材料として残る。週末のG20も協調体制が取れなかったこともあり、リスクオフ相場が簡単に収束に向かうのは難しいだろう。

また、昨日の日銀短観で発表された、大企業・製造業のドル円想定為替レートは、2019年度は上期109.36円、下期109.34円とされた。3月調査時の108.87円(上期108.80円、下期108.93円)から円安の想定レートに変わったが、3月時点のドル円が111円を中心に取引されていたことで、想定レートを引き上げたようだ。想定レートを考えると、製造業をはじめ、ドル円が上昇した局面では手堅くドル売り予約を抑えることになるだろう。

ドル円以外では、上記のようにEUの首脳人事が混迷化していることで、ユーロの動きには警戒したい。本日も首脳会議が延長して行われるが、再び人事が決まらない場合はユーロの上値を抑えそうだ。

また本日、豪準備銀行(RBA)が政策金利を発表することで、豪ドルの動きに警戒したい。市場では、史上最低を更新し1.00%へ利下げするという予測になっている。理事会後の声明文だけではなく、日本時間18時半頃に予定されているロウRBA総裁の講演まで、豪ドルは神経質な動きとなりそうだ。特に6月中旬に発表された隣国NZの、1-3月期のGDPが市場予想より好結果だったことで、豪ドル/NZドルのクロスの動きにも目を配りたい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 6月マネタリーベース

<海外>

○13:30 ☆ 豪準備銀行（RBA）政策金利発表（予想：1.00%に引き下げ）

○15:00 ◎ 5月独小売売上高指数（予想：前月比0.5%／前年比2.7%）

○15:00 ◇ 6月英ネーションワイド住宅価格指数（予想：前月比0.2%）

○15:45 ◇ 5月仏財政収支

○17:30 ◎ 6月英建設業購買担当者景気指数（PMI、予想：49.3）

○17:30 ◎ クノット・オランダ中銀総裁、バシリアウスカス・リトアニア中銀総裁、講演

○18:00 ◎ 5月ユーロ圏卸売物価指数（PPI、予想：前月比▲0.1%／前年比1.7%）

○18:30 ◎ ロウ豪準備銀行（RBA）総裁、講演

○19:35 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演

○23:05 ◎ カーニー英中銀（BOE）総裁、講演

○24:00 ◎ メスター米クリーブランド連銀総裁、講演

○新欧州議会招集（仏ストラスブール）

○OPECと非加盟産油国の閣僚会合（ウィーン）

3日

<国内>

○08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

<海外>

○10:30 ◇ 5月豪貿易収支

○10:30 ◎ 5月豪住宅建設許可件数

○10:45 ◎ 6月Caixin中国サービス部門PMI

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

1 日 15:21 クラリダ FRB 副議長

「米インフレ率は 2%目標近くで推移している」

1 日 18:05

「成長維持のため、適切に行動する」

1 日 15:36 レーン・フィンランド銀行(中央銀行)総裁

「欧州中央銀行(ECB)は、必要に応じて全ての手段を

調整する用意がある」

「インフレ率は、短期的には 2%周辺で推移する見通し」

1 日 19:58 「必要ならば、金融緩和は可能」

1 日 18:52 バーキン米リッチモンド連銀総裁

「経済成長の鈍化は、利下げの可能性を高める」

1 日 19:19 ハント英外相

「より良い合意での欧州連合(EU)からの離脱が望ましい」

1 日 19:43

「7 月、8 月に EU と交渉して、9 月 30 日までに合意ある

ブレグジットが可能か否か決定する」

1 日 23:54

「核合意に違反したイランに対して強い懸念」

「中東地域の緊張緩和のために、英国はあらゆる外交的手段を使い貢献」

1 日 20:18 エルドアン・トルコ大統領

「ロシア製地对空ミサイル(S400)が 10 日以内に導入される」

「トランプ米大統領は、S400 導入に対する制裁はない、と明言」

1 日 21:37 ノバク露エネルギー相

「全ての石油輸出国機構(OPEC)加盟国が 9 カ月の減産延長を承認」

1 日 21:58 易綱中国人民銀行(中央銀行)総裁

「中国は確実に競争的な通貨安を望まない」

「G20 サミットの結果は予想よりも少し良かった」

「貿易協議のロードマップはとても建設的」

1 日 22:13 ECB 理事会メンバーのデコス・スペイン中銀総裁

「2021 年のインフレ率は 1.6%と予想。目標からは遠い」

1 日 22:17 EU 高官

「伊財政問題に関する協議は 2 日(火)から週後半に延期」

2 日 02:29 伊政府筋

「19 年の財政赤字目標、対 GDP 比では 2.4%から 2.04%に引き下げ」

「20 年の財政赤字目標、対 GDP 比では 2.1%に」

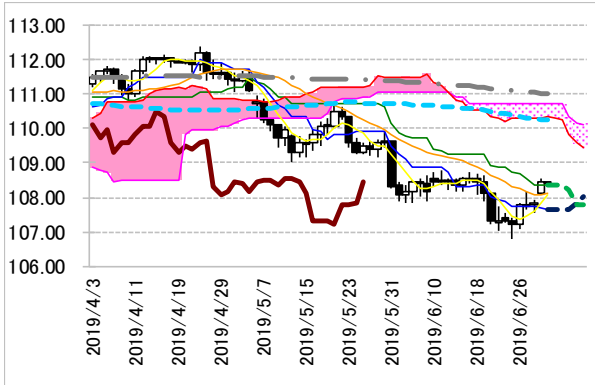
2 日 06:31 トランプ米大統領

「イランは危険なことに手を出している」

「米中通商協議、電話にて既に始まっている」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

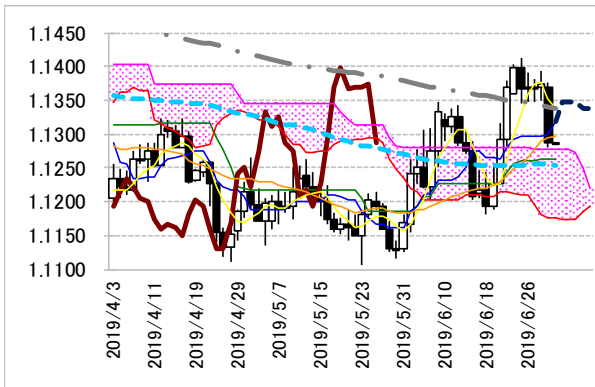


<ドル円=転換線付近で動き停滞>

陽線引け。一目均衡表・基準線 108.36 円付近で動きは停滞気味だったが、一定の底堅さを維持した。

低下傾向の基準線とともに下押すことも考えられ、同線は強い支えにならないかもしれない。だが、108 円付近で上昇中の 5 日移動平均線前後のサポートが確認できれば、基調の強さの確認となるだろう。基準線や 5 日線が支えとならなくとも、一目・転換線が現水準 107.66 円台で底打ちする見込みであるため、同線とともに戻す展開が想定できる。

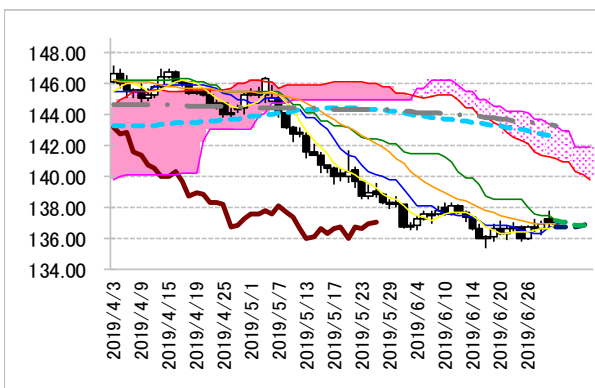
レジスタンス 1	108.80(6/11 高値)
前日終値	108.45
サポート 1	107.89(ピボット・サポート 2)
サポート 2	107.56(6/28 安値)



<ユーロドル=転換線を下回る水準で底堅さ示す可能性も>

陰線引け。一目均衡表・雲の上限 1.1278 ドルを試す展開となった。1.13 ドル台で上昇傾向の一目・転換線や、1.13 ドル割れ水準で上昇中の 21 日移動平均線を下回って現水準で底堅さを示す可能性はある。しかし、転換線の上昇とともに戻りを試しても、反発力が不十分なら同線は程なく失速する見込み。相場も低下中の 200 日線を追うようなさえない推移となろう。

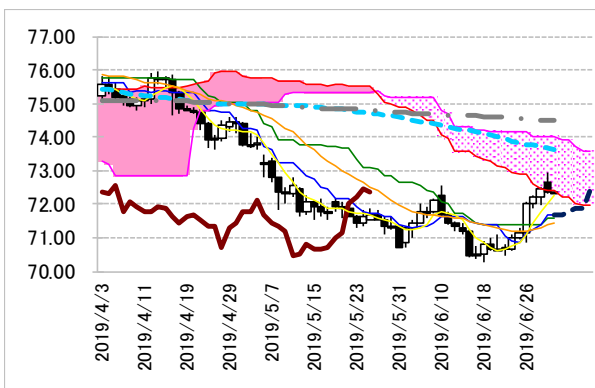
レジスタンス 1	1.1338(200 日移動平均線)
前日終値	1.1286
サポート 1	1.1229(5/30-6/25 上昇幅の 61.8%押し)



<ポンド円=基準線は鈍いペースでの持ち直しを示唆>

小陰線引け。一目均衡表・転換線と基準線が推移する 137 円付近の動きとなっている。136.80 円付近でいったん下げ渋った転換線を支えに、戻りを試す展開も想定できる。だが、基準線は現水準 137.20 円から、今週末に 136.87 円まで低下してから底打ちする見込み。戻すにしても、同線が示唆するような鈍いペースでの持ち直しかもしれない。

レジスタンス 1	137.79(7/1 高値)
前日終値	137.09
サポート 1	136.28(6/28 安値)



<NZドル円=雲の下限に沿って下押す展開か>

上影陰線引け。一目均衡表・雲の抵抗の中で、上値が抑えられた。戻り一巡で押し返される展開が想定され、雲の下限に沿って下押すこととなるか。その場合、上昇が見込まれる一目・転換線のサポートを待つことになる。

レジスタンス 1	72.77(ピボット・レジスタンス 1)
前日終値	72.35
サポート 1	71.87(6/27 安値)

